

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

県立岐阜盲学校 事業実施報告書②

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 岐阜県 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	岐阜県立岐阜盲学校 ゴールボール部員（10名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ ） ② 行事名（ ） ③ その他（東海地区盲学校ゴールボール大会） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	・ゴールボールを通して、技術や体力の向上を目指すとともに、生徒同士の交流と親睦を図る。
5 取組内容	○事前の取組 ・全校の児童生徒が集まり壮行会を実施した。代表者がエールを送ることで、選手たちは学校の代表で試合に挑む気持ちをもつことができた。 ・体育の授業でゴールボールに取り組むことで、競技を理解して大会の応援ができるようになった。 ○ゴールボール大会 ・東海地区の盲学校、視覚特別支援学校から男子5チーム、女子3チームが参加した。各会場では、男女に分かれて優勝を目指して競い合うことができた。 

6 主な成果	・今まで、ゴールボールを体験したことがない児童生徒がゴールボールを体験する機会になった。また、他校のチームと対戦できたことで、もっと試合に出場したい意欲をもつことができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	・8月に東海地区の盲学校の職員を対象にゴールボールの実技講習会を実施した。その際には、ロンドンパラリンピック金メダリストの中嶋茜氏を講師に迎え、パラリンピックの歴史やゴールボールの特性を講演していただいた。職員がパラリンピックやゴールボールに興味をもつことで、自校の児童生徒にゴールボールの良さを伝えていきたいと考えた。
8主な課題等	・ゴールボールは競技の特性上、全ての児童生徒が取り組むことは難しいが、特別なルールを設定したり、ボールを工夫したりしていくことで競技の楽しさを伝えていきたい。
9来年度以降 の実施予定	・授業、部活動でゴールボールを継続し親しみがもてるようにしたい。